

## Proj.1 地場産業の新事業創造人材の育成

連携先 長野県飯田市

地方には有望な経営資源に気づいていない企業も多い。飯田市では、地域再生のため財団法人飯伊地域地場産業振興センターが、インキュベーション施設や特産品販売会社等を支援している。センターと協働し、地場産業の経営者・従業員に、研修の必要性を気づかせ、新事業・商品開発へとつなげる。 ●プログラムコーディネータ 大友 純(明治大学商学部教授)



## Proj.2 伝統技術指導人材の育成

連携先 群馬県嬭恋村

農業の伝統技術を継承するために嬭恋アグリカレッジを立ち上げる。そこで、技術が継承されずに衰退が懸念される伝統産業の従事者を対象に、伝統技術のすばらしさを再認識させ、伝統を伝承する指導者の養成を行う。 ●プログラムコーディネータ 水野 勝之(明治大学商学部教授)



## Proj.3 外国人向け観光ガイドの育成

連携先 和歌山県新宮市

熊野地域が歴史的世界遺産に登録された後、新宮市では、外国人観光客が倍増したが、外国人向けのおもてなしができる人材が不足している。企業等を定年後、新たに地域での就労を考えている人たちを対象に、英語で観光ガイドができる人材を育てる。 ●プログラムコーディネータ 崎 章浩(明治大学経営学部教授)



## Proj.4 主婦による地域ブランド開発

連携先 鳥取県

鳥取県では、鳥取県ふるさと認証食品制度に主婦層からの提案を公募しているが、事業化できる提案が少ない。社会参加の機会が少ないが、社会に役立てる可能性を持った主婦を対象に、新しい地域ブランドのアイデアを提案できる人材を育てる。 ●プログラムコーディネータ 吉田 悦志(明治大学政治経済学部教授)



## Proj.5 博物館等ボランティアの育成

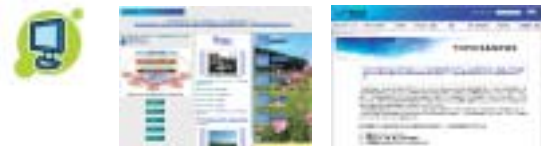
連携先 長野県長和町

高齢化が進む長和町では高齢者が生産活動に就くことが望まれている。人的交流が少なく、外に出ることをためらいがちな老人を対象に、黒耀石体験ミュージアム、原始・古代ロマン体験館等でボランティアができる人材を育てる。 ●プログラムコーディネータ 杉原 重夫(明治大学文学部教授)

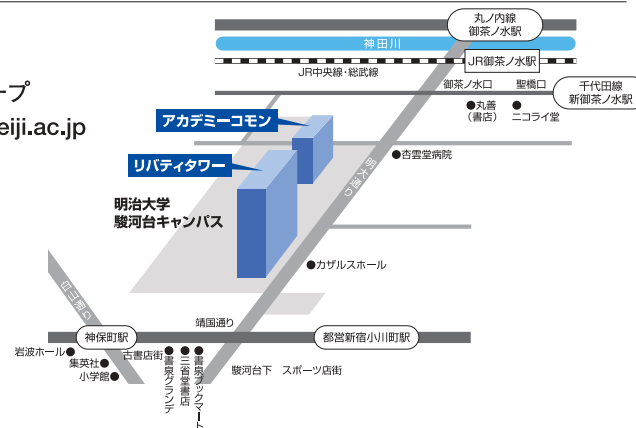


### お問い合わせ

〒101-8301 千代田区神田駿河台1-1 アカデミーコモン11階  
明治大学 学術・社会連携部社会連携事務室 エクステンショングループ  
TEL 03-3296-4543 FAX 03-3296-4541 Mail la-pr@mics.meiji.ac.jp  
URL <http://www.meiji.ac.jp/manabigp/>



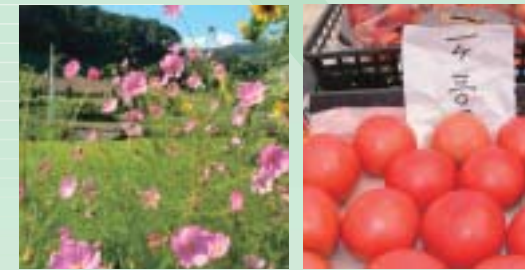
プロジェクトの様子はホームページからご覧頂けます。



## 文部科学省委託事業

「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」

# 今からでも学べる どこにいても学べる 学び直しプロジェクト始動!



明治大学リバティアカデミー



MEIJI UNIVERSITY

# 広域連携による地方活性化のための 潜在的な社会参加ニーズ対応就労促進プログラム



# 『広域連携による地方活性化のための潜在的な社会参加ニーズ対応就労促進プログラム』について



- 実施主体：リバティアカデミー
- 事業担当者：水野 勝之 (明治大学商学部教授)
- 予定期間：2007年8月1日～2010年3月31日



『広域連携による地方活性化のための潜在的な社会参加ニーズ対応就労促進プログラム』は、**学び直しの機会から取り残された人達を対象**に、学び直しの必要性の自覚を促し、就労や地域活動を促進するプログラムです。対象とする人達は、地理的、年代的理由等から、キャリアアップをあきらめていたり、その必要性に気づいていない人達で、この人達に学び直しの重要性を「**気づかせ**」、就労や地域活動に取り組むようになることで、さらに未受講者が学び直しに「**目覚め**」ることを目的としています。こうした取組は、これまで行政でも効果的な対応ができず、民間でも成果を上げることが困難でありました。本プログラムは、**大学が社会貢献として果たすべき新しい公共的な役割**と位置づけ、展開、推進するものです。

## 3つの特色

### (1) プログラムの対象者を“学び直しをあきらめている人”、“学び直しの重要性に気づいていない人”としていること

本プログラムの実施主体であるリバティアカデミーは、「再チャレンジ可能な仕組みの構築(中間取りまとめ)」(H18年5月、内閣府)に取組事例が紹介されたように、これまで、自ら再教育を受けたいと願う社会人の顕在的学び直しニーズに対応してきました。本取組では、学び直しをあきらめていたり、その必要性に気づいていない人達の潜在的な学び直しニーズを掘り起こして人材育成を行うことにより、少子高齢化が課題になっている地方の就労人口拡大や、地域の生産性向上を目指します。

### (2) 大学の教育体系と逆体系となる「4段階の学習ステージ」により、潜在的ニーズを顕在化させること

本取組は、参加しやすい個人的な関心事を取り上げる導入教育(1st)から、実務教育(2nd)、事例研究や模擬就労演習(3rd、4th)まで、段階的に社会課題の解決力を修得できるよう体系化された教育プログラムです。徐々に受講者の視野を広げるプロセスは、幅広い一般教養から次第に専門教育に進む大学教育とは逆体系となります。模擬就労演習は、創出したアイデアを事業化する等の実習的な科目です。自分の能力に自信を持ち、さらに学びの成果が未受講者を目覚めさせる最終ステージで、その結果、新たに学び直しニーズを掘り起こせたか否かが、本取組の評価指標となります。

### (3) 地方自治体等と連携し、少子高齢化地域の活性化や生産性向上に資する人材育成を全国各地で展開すること

総合大学の使命として、特定の地域だけではなく、全国をキャンパス化し、全ての人々がこのプログラムを経験できることを最終目的としています。今回、TV会議システム等のユビキタス技術を用いて、全国5つの地域と双方向授業やEラーニング授業を行い、日本の広い範囲でエクステンション教育を実行します。

## 受講者の気づきが、未受講者(他の市民)を目覚めさせる教育体系図



文部科学省は、各大学が取り組む教育プロジェクトの中から、国公立大学等を通じた競争原理に基づいて優れた取組を選定し、重点的な財政支援を行うことなどにより、高等教育の更なる活性化を図ることを目的とした支援策を打ち出しています。「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」は、政府の推進する「再チャレンジ支援総合プラン」等を踏まえ、社会人の学び直しニーズに対応するため、大学等における教育研究資源を活かした優れた学修プログラムを開発・実施することにより、再チャレンジを可能とする柔軟で多様な社会の実現を目指すことを目的としたプログラムです。